災害公営住宅の配置計画（例）　～ 石巻市災害公営住宅設計ガイドラインより ～

ライフライン途絶を想定したエネルギーシステムを導入する

【必須事項】

ライフライン途絶時の安全性を確保する為や共用部分に供する為の、太陽光発電システムを導入する。

ライフライン途絶時の夜間や悪天候時に電力を供給する為の、蓄電池システムを導入する。

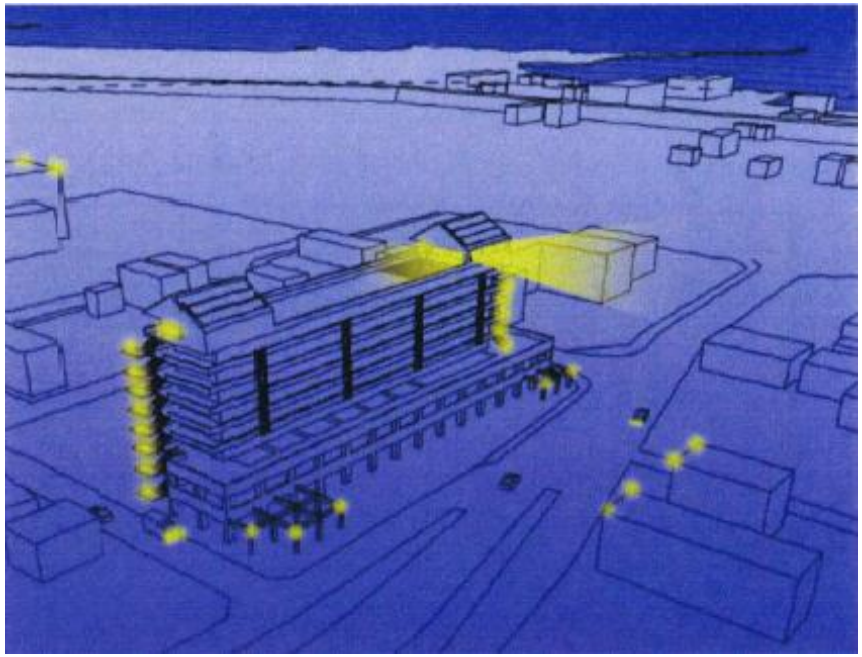
※　住棟屋根に太陽光パネルを設置した例

歩道は、歩行の安全性と快適性を高める

【必須事項】

歩道やフットパスは、安全で快適な歩きやすい道とする。主要な歩行動線はバリアフリールートとしてネットワークできるよう計画する。

※　蓄電池による共用部分への電力供給の例

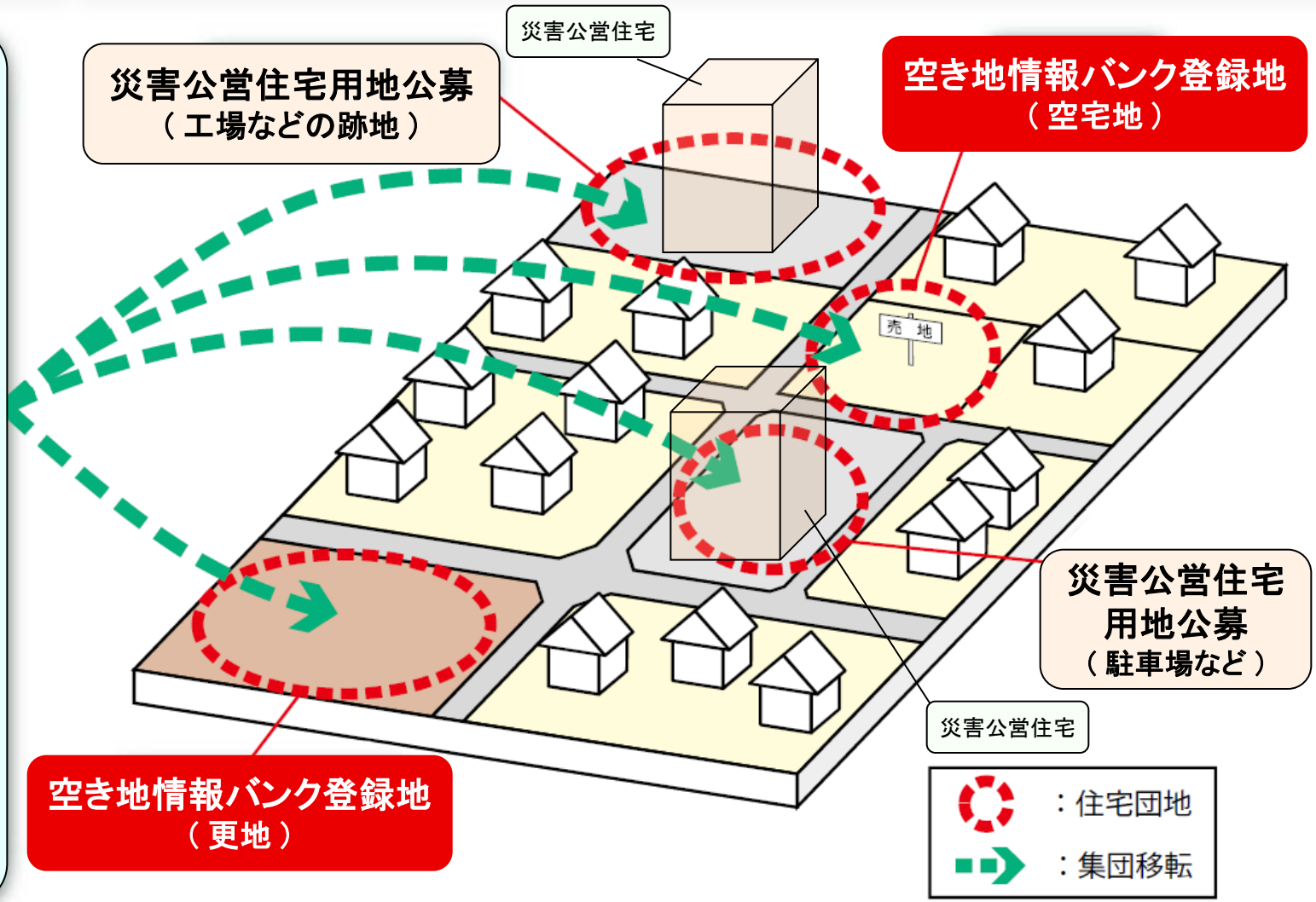


空き地情報バンクを活用したイメージ図

移転促進区域

既成市街地（堤防背後地）

河川堤防整備区域



「いしのまき水辺の緑のプロムナード計画」

◆ 現プロムナード計画は、水辺と親しみながら人々が集い、交流し、まちが賑わいを取り戻すことを目的として、まちの中心部を囲むルートと拠点を配置、堤防を活かした整備等で、まちづくりを行う計画です。

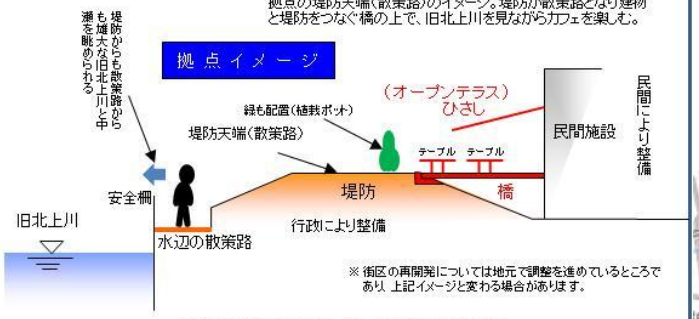
拠点イメージ

●官民連携により水辺の拠点整備を目指す。

●堤防整備(国)と連携して背後地の11番街区の再開発を行うことで、川を眺めながらゆったりカフェや食事が楽しめるような空間を目指す。

拠点イメージ

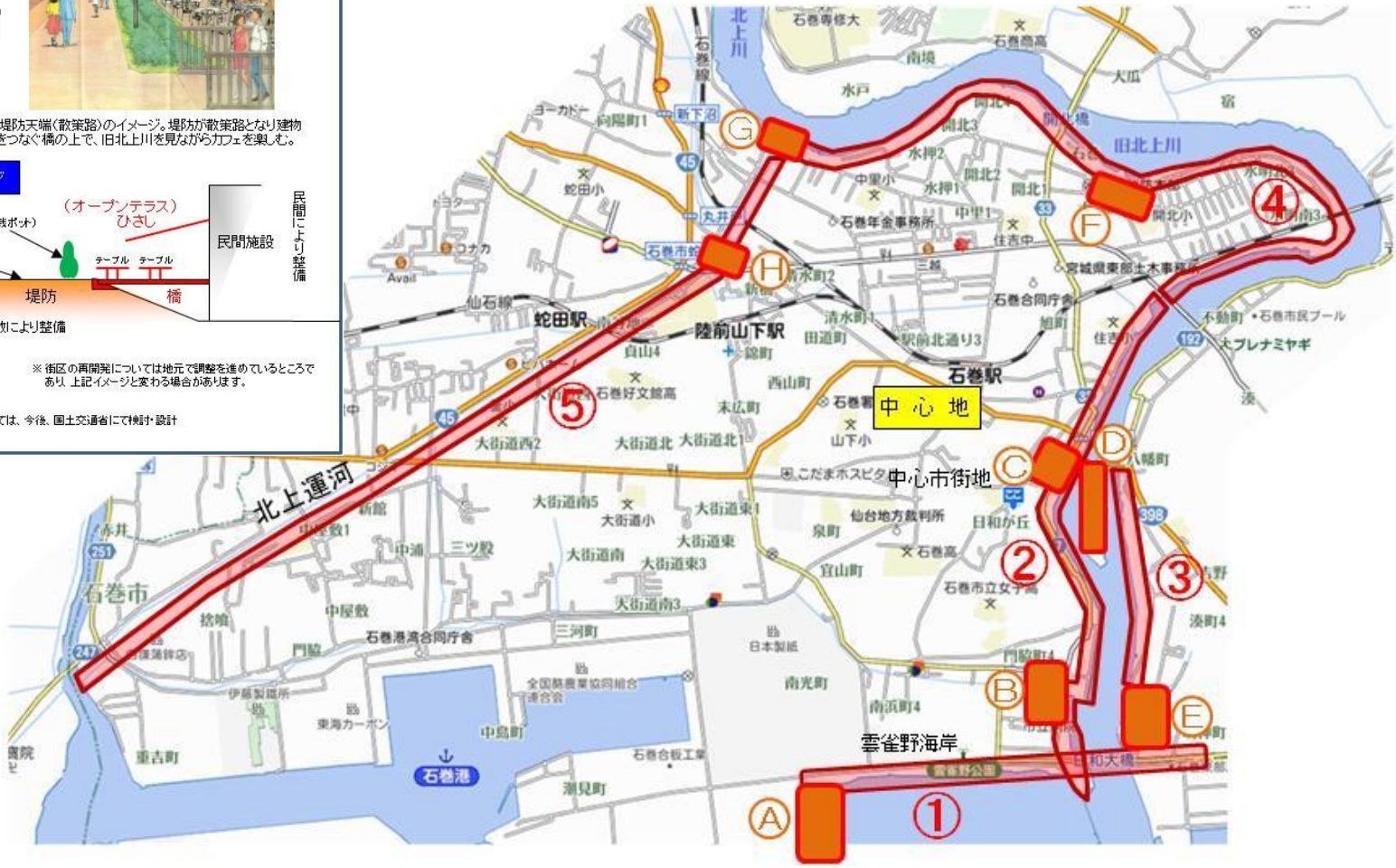
拠点の堤防天端(散策路)のイメージ。堤防が散策路となり建物と堤防をつなぐ橋の上で、旧北上川を見ながらカフェを楽しむ。



※街区の再開発については地元で調整を進めているところであり、上記イメージと変わる場合があります。

※具体な堤防設計については、今後、国土交通省にて検討・設計

ルートと拠点の配置計画



「水の都ひろしま：水辺のオープンカフェ」事例

【広島県広島市／京橋川・元安川】

・広島市は瀬戸内海に面し、中心部を6本の川が流れる「水の都」であり、美しい水辺に恵まれている。その魅力を生かして、京橋川や元安川の河岸緑地において、水辺に新たな魅力を創り出すため、民間のノウハウや活力を導入した「水辺のオープンカフェ」を実施している。
・現在、京橋川沿いの河岸緑地では7店舗、元安川沿いでは1 店舗が営業中（季節営業を含む。）であり、多くの市民や来訪者に憩いの場、交流の場を提供している。

水辺のオープンカフェ

水辺の夜景の演出（ライトアップ）

樹木イルミネーション

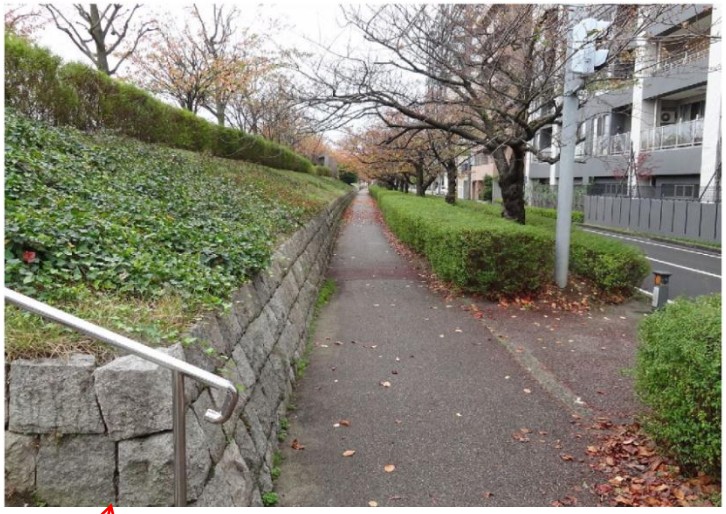
京橋ライトアップ

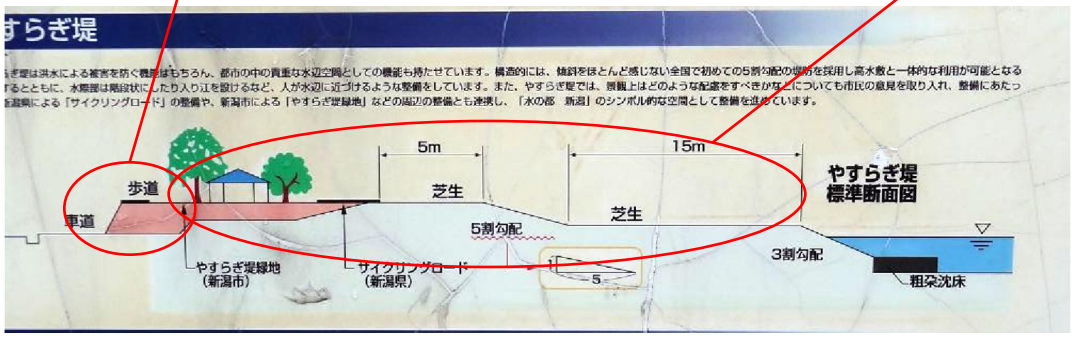
広島市HPより

信濃川の事例（やすらぎ堤）

【新潟県新潟市／信濃川】

・信濃川の下流部について、防災面に加え、人々が集い、憩える街なかのやすらぎの場として、堤防整備を行っており、この堤防は「やすらぎ堤」と名づけられ、都市の中の貴重な水辺空間となっている。
・新潟市の象徴である萬代橋を背景に、桜とチューリップが咲き誇る信濃川やすらぎ堤。夜には「ぼんぼり」が点灯され、美しい信濃川の夜景とともに楽しめる。
・桜の季節には、水上バス「信濃川ウォーターシャトル」からも、川岸に咲く桜を眺めることが出来る。



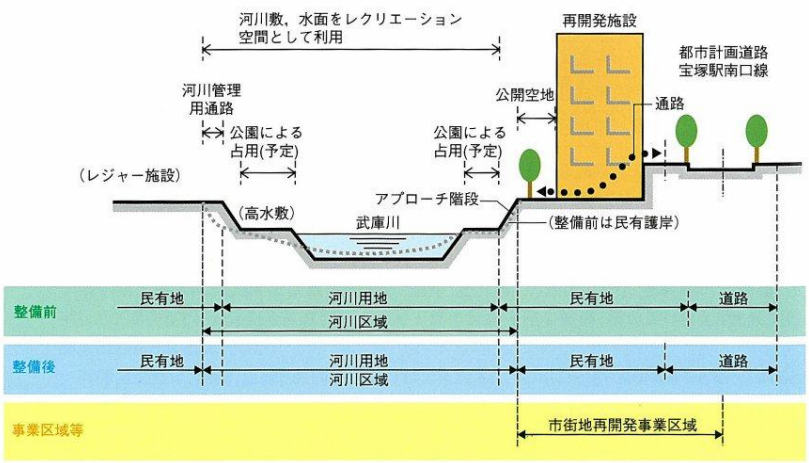


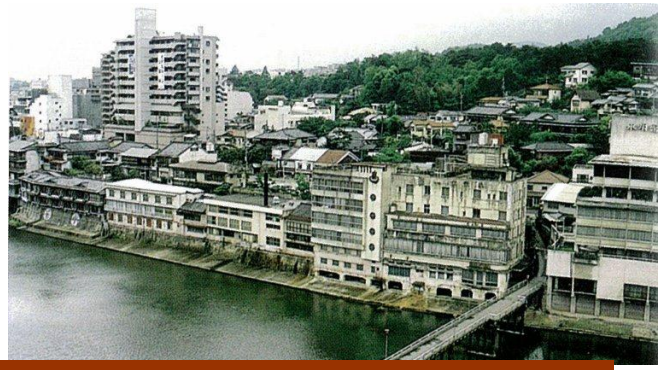
（社）新潟県観光協会「にいがた観光ナビ」HPより（右側3枚）

市街地再開発事業と一体となった事例

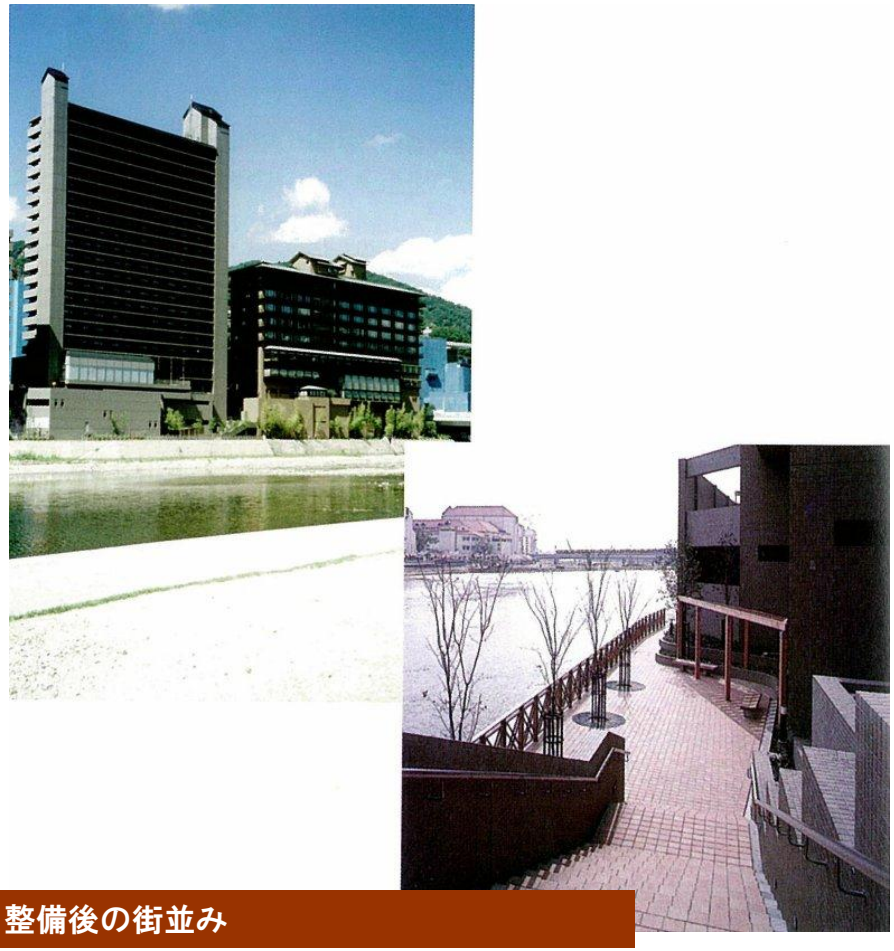
【兵庫県宝塚市／武庫川】

- 当該地区は古くから河川沿いに旅館等が立地しており、河川管理用通路もなく河川に近づけなかった。
- 湯本第一地区の再開発は、河川区域を境に河川とまちづくり事業を区分して実施している。
  再開発用地の奥行が狭かったために、河川管理用通路は確保されなかったが、河川側に公開空地を設置し、ここから河川敷までの階段を整備することで、まちから河川への連続性を確保している。
- 河道幅に余裕のある区間は広い河川敷を整備して、沿川のレジャー施設と一体的に利用できる親水空間を創出している。高水敷の部分については、宝塚市の公園による占有を予定している。





整備前の湯本地区の川沿いの街並み



整備後の街並み

(財)リバーフロント整備センター「河川を活かしたまちづくり事例集」より